

「町田市産業振興計画 19-28」の策定について

技術の革新、消費行動や働き方の変化など、目まぐるしく変化し続ける社会環境の中、今後もビジネスや働く場として町田市が「選ばれる都市」であり続けるために、10年後、さらにその先の市の姿を見据えた産業振興の方向性を示す「町田市産業振興計画 19-28 ～チャレンジするなら、TOKYOの町田から！～」を策定しました。

1 計画策定の経過

別紙1 参照

2 計画の概要（別紙2 参照）

（1）計画期間

2019年度～2028年度

（2）目指すべき将来像と施策の柱

町田市の産業の現状や、今後予想される社会・経済に関する情勢の変化等を踏まえ、本計画では「立ち上げる」・「拡げる」・「つなぐ」の「3つのチャレンジ」の促進・支援と、「ビジネスしやすく、働きやすいまちづくり」からなる4つの柱を設定し、これらの柱に基づく施策を推進することで、＜ビジネスに、働く人に、心地よいまち＞を目指します。

また、施策の成果を測るため、計画全体及び柱ごとの成果指標を設定し、効果的な取り組みを進めていきます。

3 今後の推進方針

（1）実行計画の策定

本計画を着実に推進するため、具体的な事業とそのスケジュールを示した「実行計画」を3月中に策定します。計画期間は5年とし、2019年度から2023年度までを「前期」、2024年度から2028年度までを「後期」とします。

（2）町田市産業振興計画推進委員会の設置

町田市産業振興計画推進委員会を設置し、計画の円滑な推進と計画の進捗管理を行います。

「町田市産業振興計画 19-28」策定の経過

日時	内容	詳細・審議事項 等
2018年 1月～3月	計画策定に向けた調査	○計画策定に係る事業者向けアンケート調査の実施 ○消費行動実態調査の実施
3月6日 (火)	第1回 町田市産業振興計画 策定検討委員会	○町田市の経済・産業に関する現状分析
5月9日 (水)	第2回 町田市産業振興計画 策定検討委員会	○経済・産業における町田市の将来像の検討 ○町田市の「強み」・「弱み」、「機会」・「脅威」の検討
6月1日 (金)	第3回 町田市産業振興計画 策定検討委員会	○目指すべき将来像の検討 ○計画の体系及び施策の方向性の検討
7月18日 (水)	第4回 町田市産業振興計画 策定検討委員会	○施策体系と指標の検討
10月10日 (水)	第5回 町田市産業振興計画 策定検討委員会	○取り組むべき事業の検討 ○素案の確認
10月15日 (月) ～ 11月15日 (木)	パブリックコメント	○素案に対するパブリックコメント (意見公募)の実施
2019年 1月11日 (金)	第6回 町田市産業振興計画 策定検討委員会	○計画案の確認

町田市産業振興計画 19 - 28

チャレンジするなら T🌍K🌿Y🏠の町田🏠から! 概要版

Machida Industry Vision 19-28

CONTENTS

1. 計画の概要	1
2. 町田市の産業をめぐる現状と予想される変化	1
3. 目指すべき将来像と施策の方向性	2
[1] 『立ち上げる』チャレンジ	3
[2] 『拡げる』チャレンジ	4
[3] 『つなぐ』チャレンジ	5
[4] ビジネスしやすく、働きやすいまちづくり	6

1 計画の概要



1. 計画策定の趣旨

技術の革新、消費行動や働き方の変化など、目まぐるしく変化し続ける社会環境の中、今後もビジネスや働く場として町田市が「選ばれる都市」であり続けるために、10年後、さらにその先の市の姿を見据えた産業振興の方向性を示す「町田市産業振興計画19-28」を策定します。

2. 計画期間

2019年度～2028年度

3. 計画の位置付け

町田市基本計画「まちだ未来づくりプラン」を上位計画として、「町田市産業振興基本条例」に基づき策定します。

4. 計画の推進体制

本計画を着実に推進するため、具体的な事業とそのスケジュールを示した「実行計画」を策定します。また、計画の推進にあたっては、市に加え、各産業支援機関、金融機関や大学等の教育機関、民間事業者等が互いに連携しながら取り組みます。

2 町田市の産業をめぐる現状と予想される変化



1. 産業の概観

- 2014年以降、市内の事業所数は微減、従業者数は横ばいで推移
- 事業所数・従業者数ともに「卸売業・小売業」の割合が高く、年間商品販売額は、2012年から回復傾向が見られる

2. 市内における事業者の現状

- 起業・創業の意欲が高く、町田市の開業率は全国平均を上回る
- 競争力強化や事業の拡大等に前向きな事業者が多く、また異業種等と連携した取り組みが活発
- 人材の確保・育成や既存事業の継続・承継に向けた取り組みの重要性が高まっている

3. 町田市の産業をめぐる状況の変化

- 生産年齢人口（15～64歳）の減少により、労働力不足が深刻化
 - 多摩都市モノレールや小田急多摩線の延伸促進、大規模な国際大会の開催等による交通網や人の流れの変化
 - 第4次産業革命の進展により、新しい技術がより身近に
- これらの環境変化により、10年後、私たちのビジネスやライフスタイルは今と大きく異なっているかもしれません。（裏表紙のイメージ図をご覧ください。）

3 目指すべき将来像と施策の方向性

町田市の産業の現状や、今後予想される社会・経済に関する情勢の変化等を踏まえ、本計画では「立ち上げる」・「拡げる」・「つなぐ」の「3つのチャレンジ」の促進・支援と、「ビジネスしやすく、働きやすいまちづくり」からなる4つの柱を設定し、これらの柱に基づく施策を推進することで、<ビジネスに、働く人に、心地よいまち>を目指します。

また、施策の成果を測るため、計画全体及び柱ごとの成果指標を設定し、効果的な取り組みを進めていきます。

本計画における「4つの施策の柱」と目指す姿、及び将来像のイメージ

将来像

ビジネスに、働く人に、心地よいまち

計画全体の指標 付加価値額^{※1}の増加 現状値：5,416億円(2016年)

目指す姿

たくさんの新しい企業やビジネスが誕生し、起業・創業がしやすい風土が根付いている。

指標

開業率^{※2}の上昇
(経済センサスに基づき算出)

現状値

6.4%(2014年→2016年)

新分野・新技術への進出や異業種間連携等をきっかけに、市内事業者のイノベーションが促進され、自社や地域の強みを生かした他にはない新しい価値が生み出されている。

指標

1事業所あたりの付加価値額の増加
(経済センサスより)

現状値

5,070万円(2016年)

将来を見据えた人材育成と円滑な事業承継により、市内事業者の優れた技術・ノウハウが次世代に受け継がれている。

指標

事業所数の維持
(経済センサスより)

現状値

12,106事業所(2016年)

それぞれのライフスタイルに合った多様な働き方が実現できるまちとして、多くの人に選ばれている。まちに賑わいがあり、ビジネスに適したまちとして多くの事業者を選ばれている。

指標

昼夜間人口比率^{※3}の上昇
(国勢調査より)

現状値

91.7%(2015年)

施策の柱



『立ち上げる』チャレンジ
新たに事業を立ち上げる
チャレンジを支援します。



『拡げる』チャレンジ
事業者が競争力を高める
チャレンジを支援します。



『つなぐ』チャレンジ
事業を継続し、次世代へ承継
するチャレンジを支援します。



『ビジネスしやすく、
働きやすいまちづくり』
チャレンジを促進するため
の環境づくりを推進します。

※1: 付加価値額 企業の生産活動によって新たに生み出された価値のことを指す数値。

※2: 開業率 一定期間において、新規に開設された事業所数(年平均にならした数)の、期首に存在していた事業所数に対する割合。

※3: 昼夜間人口比率 昼間人口(町田市に常住する人口から町田市外に通勤・通学している人口を除き、市外からの通勤・通学してくる人口を加えたもの)を、町田市の夜間人口(町田市に常住する人口)で割った値。これが100%を上回っていれば、通勤・通学のために流出する人口よりも流入する人口が多いまちであり、逆に100%を下回っていれば、流入よりも流出が多いまちということになる。



1. 『立ち上げる』チャレンジ

最初の一步に、最高なまち。

町田市は、市内での開業率の高さからも分かるとおり、市内外の多くの方から起業・創業の地として選ばれています。「ビジネスを始めるに当たり、交通利便性や商圏人口の大きさは大切だけど、いきなり都心で起業・創業するのはリスクが大きく、まずは小さく始めたい。」このような起業・創業ニーズに応えられるまちであることが、多くの方から一歩目を踏み出す場所として選ばれる理由のひとつです。

新しいチャレンジが生まれやすい環境を生かして経済の新陳代謝を促すことを目指し、新たにビジネスを起こそうとする人材の発掘から、起業・創業の実現、起業・創業後の事業拡大まで切れ目のない支援を行い、事業を『立ち上げる』チャレンジを促進します。

施策の方向性 1

起業・創業の魅力を伝える

施策① 幅広い世代に向けた起業・創業の魅力発信

拡充

施策② 起業・創業への第一歩を支援

継続

施策の方向性 2

想いを形にするためのサポート

施策① 起業・創業の実現に向けたニーズに沿った支援

継続

施策② 起業・創業支援の担い手の拡充

拡充

施策の方向性 3

起業・創業後の事業拡大を後押しする

施策① 起業・創業初期の経営支援

拡充

施策② 起業・創業後の事業拡大に向けた資金調達の支援

拡充



2. 『拡げる』チャレンジ

仲間と一緒に、拡がる可能性は無限大！

町田市には比較的小規模な事業所が多く、その機動性を生かしてか、他の企業等との連携に意欲的な事業者が多く存在します。また、事業者同士だけでなく、事業者と支援機関それぞれが顔の見える関係を構築し、仲間として一緒にステップアップしようという風土が強く根づいています。こうした強みを生かしながら、市内事業者の競争力を強化するとともに、事業から生み出される価値を高めるため、新たな商品・サービスの開発や新事業の展開、販路開拓、異業種・異分野との連携など、事業を『拡げる』チャレンジを支援します。

施策の方向性 1

新分野・新技術への進出を後押し

施策①	産業財産権に関する啓発・取得の支援	拡充
施策②	環境変化に応じた商業事業者の販売促進の支援	拡充
施策③	新しいビジネスモデルや新技術の導入に挑戦する事業者を支援	拡充

施策の方向性 2

独自の「強み」を磨く取り組みをサポート

施策①	自社の技術を生かし、競争力を高める取り組みを支援	拡充
施策②	町田の特色や強みを生かした商品・サービスの開発、ブランド化の促進	継続
施策③	営業支援や展示会出展支援を通じた販路拡大の促進	拡充

施策の方向性 3

異業種・異分野との連携による新たな価値の創出

施策①	異業種・異分野との連携機会の創出	継続
施策②	連携による新たな価値の創出に関する支援	拡充



3. 『つなぐ』チャレンジ

町田なら、身近に相談できる人がいる。

市内産業の活力を維持・向上させるためには、起業・創業の促進や競争力の強化だけでなく、これまで市の産業を支えてきた事業者が、より良い状態で事業を続け、次世代へ事業をつないでいくことが重要です。

町田市では、事業の継続や承継に関する総合的な支援を行う「多摩ビジネスサポートセンター」が2018年に町田商工会議所内に開設され、経営のあらゆるステージでいつでも手厚い支援を受けられる環境が整ってきています。支援機関が互いに連携し、生産性向上や人材確保・育成等による経営の安定化、経営基盤の強化、円滑な事業承継等を支援することで、事業を次世代に『つなぐ』チャレンジを促進します。

施策の方向性 1

安定した事業継続をサポート

施策①	コスト削減や売上向上の取り組みを支援	継続
施策②	業務の効率化・生産性向上を促進	拡充
施策③	事業継続の課題解決に向けた取り組みを支援	拡充

施策の方向性 2

次代を担う人を育てる

施策①	将来を担う人材の確保を支援	拡充
施策②	人材育成やキャリア形成に関する支援	継続

施策の方向性 3

円滑な事業承継を推進

施策①	事業承継に対する早期の対策の促進	拡充
施策②	事業承継や後継者育成に関するニーズに応じた支援	拡充
施策③	事業承継マッチングや事業承継手続きに関する支援	拡充



4. ビジネスしやすく、働きやすいまちづくり

「ちょうどいい」まちが、いちばん良い。

多くの商業施設で賑わう中心市街地等の駅前空間と、緑豊かな公園や里山が共存する町田市は、都心の賑わいを楽しみながら、自然を感じて伸び伸びと生活できるまちです。子育てと仕事の両立、仕事とプライベート双方の充実、副業へのチャレンジなど、働き方が多様化する時代の中で、良好な住環境が近くにあることは、ビジネスをする側、働く側どちらにとっても大きな強みです。多様なライフスタイルを実現するのに「ちょうどいい」まちという環境を生かし、ビジネスしやすさと働きやすさのさらなる向上を図ることで、事業者や働く人の様々な『チャレンジ』を促進するための土台作りを進めます。

施策の方向性 1

働きやすいまちづくりを推進する

- | | | |
|-----|----------------------|----|
| 施策① | 多様な働き方を実現するための環境づくり | 拡充 |
| 施策② | 心地よく働き続けることができる環境づくり | 継続 |

施策の方向性 2

「選ばれるまち」としての魅力を高める

- | | | |
|-----|--------------------------|----|
| 施策① | 事業者サポート体制の充実 | 拡充 |
| 施策② | 多様な資金調達の支援 | 拡充 |
| 施策③ | 市内におけるオフィスや工場の新設・規模拡大を支援 | 継続 |
| 施策④ | 町田の特色や強みを生かした事業者の集積を促進 | 拡充 |
| 施策⑤ | 町田で働く魅力の発信 | 拡充 |
| 施策⑥ | 産業支援に関する有効な情報発信 | 拡充 |

施策の方向性 3

まちの賑わいを生み出す

- | | | |
|-----|------------------------------|----|
| 施策① | コト・トキ・モノ消費を楽しむことができる「商店街」の支援 | 継続 |
| 施策② | 町田の産業の魅力発信 | 継続 |

10年後の町田市はこうなっている!?

町田市の現状及び今後予想される変化等を踏まえ、10年後の町田市の様子について、以下のようにイメージしました。

人口減少や交通インフラの充実、技術革新などにより、ビジネスやライフスタイルがこんな風に変化しているかもしれません。

交通やまちの機能の変化

空き家の活用が進む

少子高齢化による空き家の増加をきっかけに、利用されていない家屋などを活用した新しいビジネスやコミュニティが生まれている。

多摩都市モノレール 導入路沿線が活性化

多摩都市モノレールの導入路沿線や駅の整備予定地周辺は、利便性向上への期待感から、住居やビジネスの場所として選ばれ始めている。

町田市が起業・ イノベーションの拠点に

都心へのアクセスの良さを生かし、起業家やイノベーションが次々に生まれている。

ライフスタイルの変化

新たな手法による 金融取引が浸透

キャッシュレス決済や仮想通貨が浸透し、まちなかの商店での普段の買い物や、事業者の資金調達にも活用されている。

働き方の 多様化が進む

良好な住環境から、テレワークなど時間や場所にとわれない多様な働き方を実現できるまちとして子育て・シニア世代から選ばれている。

シェアリング エコノミーが浸透

シェアリングエコノミー市場が拡大し、モノを保有しない文化や個人のスキルを共有する生活が市民の生活に浸透している。

新たな技術の浸透

仕事に求められる 能力が変化

単純労働が減少することで、仕事に対する姿勢や求められる能力が変化し、労働に対する価値観が多様化している。

仕事の効率向上で 生まれた時間を有効活用

AIやロボットの活用により、仕事の効率化が進み、余暇や、新たな仕事に充てる時間が増加している。

市民の生活がより便利に

車の自動運転など、現在研究開発が進められている技術が社会に浸透し、市民の生活がさらに便利になっている。

シェアリングエコノミー 個人が供給者になれる

